

講演報告

日本語教授 土 屋 博 映

「文法を読解に生かすために」 平成16年6月22日（小学館主催）

上記のような題目で、渋谷区の高校教員を対象に、以下のような内容で、講演を行った。

文法嫌いの高校生に、如何に文法を学ぶ気にさせ、また学ばせるかについて、渋谷区の高校教師、およそ100名に、講演した。文法は、決して難しいものではないが、取り付きにくいことと、独習しにくいことが、文法嫌い、ひいては古文嫌いまでを招いている。まずは古文は日本語であって外国語ではないことを認識させることから、古文への恐怖心を取り除くことが必要であるということを伝え、そのためには、現代語との比較をできるだけ具体的に提示することがのぞましいということ、また、学ぶ対象を明確にしてやること、つまり文法書を全部丸暗記することなどない事を示して安心させるのがよい。助動詞、助詞、敬語、この3つさえ何とかすれば、文法は大丈夫であり、さらにそれらもすべて学ぶ必要はなく、現代語と重なるものや、重要でないものを除外すれば、たいした量はないという意識を徹底させるとよいという方向で、その指導の具体例を解説した。